

前田家族の宝蔵：尊経閣文庫

此展示室中陈列的展品均来自尊経閣文庫，尊経閣文庫是江戸时代（1603–1867）前田家族收蔵古籍、历史文献、装饰盔甲、绘画和其他珍宝的仓库。展品每个月都会轮换，其中有前田家族藩主们成套的盔甲、华丽的阵羽织、采用加贺金属镶嵌技艺的马镫、茶道用具、山水画、书法作品，极少数情况下还会展出“百工比照”，即展现各种装饰工艺技巧的特殊样本集。

尊経閣文庫所有藏品中共有国宝 22 件，日本重要文化财产 77 件，就单个家族的收蔵而言可谓数目惊人。这些藏品大部分是古籍，保存于东京。但石川县立美术馆经准许可以保存和展出其中约 400 件艺术品和工艺品。

在江戸时代早期，前田家族是日本最富有的家族之一，加贺藩的年收入仅次于幕府。前田家族雄厚的资产让他们能够斥巨资推动艺术发展，并收集许多优秀作品。尊経閣文庫的大部分藏品是由加贺第三代藩主前田利常（1594–1658）及其孙五代藩主前田纲纪（1643–1724）收集的。

历史上，前田家族的藏品一部分保存在其位于江戸（今东京）的府邸。江戸时代的藩主通常有两处府邸，一处在自己的藩地，一处则在江戸。根据幕府的“参勤交代”政策，藩主每年必须在两处府邸轮流居住，藩主的妻和主要继承人则长期住在江戸。因此，前田家族的部分藏品保存在位于江戸的府邸。当幕府政权在 1867 年倒台时，前田家族的藏品一部分在东京。明治时期（1868–1912）前田家族前往东京定居，将留在金泽府

コメントの追加 [u1]: 【要確認】
012-060 同様

コメントの追加 [VT2R1]: 上記同様

コメントの追加 [u3]: 【要確認】
012-060 同様

コメントの追加 [VT4R3]: 上記同様

コメントの追加 [u5]: 【要確認】
日本語にはない内容ですが、問題ないでしょうか。念のためご確認をお願いいたします。下記の「正室と世継ぎは江戸に常住しなければならなかった。側室および世継ぎ以外の子にはそのような義務はなかった。」をもご参照ください。
[参勤交代 - Wikipedia](#)

コメントの追加 [VT6R5]: 修正いたしました。

邸的藏品也搬迁至东京。1926 年，前田家族的第 16 任当主前田利为（1885–1942）在东京成立了前田育德会，以便更好地保存和管理家族藏品。

只有事先获得许可的研究者才可以进入东京的尊经阁文库。因此，公众只有在前田育德会展示室才可以欣赏这些日本曾经最富有的武士家族引以为傲的珍藏。

コメントの追加 [u7]: 【要確認】
この部分は別の段にしたほうがいいのではと思います。
念のためご確認をお願いいたします。

コメントの追加 [VT8R7]: 英語原稿では同じ段落となっていること、前田家のコレクションの話であるため、
同じ段落にしても問題ないかと存じます。